

## 平成 30 年度香川大学大学院入学式 学長告辞

本日、香川大学大学院に入学した修士課程 209 名、専門職学位課程 38 名、博士（後期）課程 47 名の皆さん、入学おめでとうございます。香川大学の教職員一同とともに皆さんの入学を心からお慶び申し上げます。また、これまで皆さんを支えて来られたご家族や関係者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

さて、今日から皆さんはそれぞれの学問分野でさらに学問を究めるために新しい一歩を踏み出しました。すなわち研究者としての第一歩を踏み出したこととなります。私自身が大学院に入学した 30 年あまり前のことを思い出しますと、「研究」という言葉に漠然とたじろいでいたように思います。「研究」することの意味はひとによって様々だろうと思います。学位を取ってキャリアアップに繋がりたいというのも良いでしょう。一発あてて人々の度肝を抜いてやりたい、これも良いでしょう。素直に研究の成果を人類の福祉に役立てたい、と思っておられる方も大勢いらっしゃるだろうと思います。いずれにしてもこの貴重な大学院での研究生生活の期間は、研究に夢中になって欲しいと願っております。

我々の生活の進歩は数多くの特許に支えられていると言っても過言ではありません。特許の幾つかを見てもみると、その発見のきっかけは、我々が生活していく上で本当に困った瞬間に芽生えていることが多いよ

うです。従って、研究を開始し、継続する力を与え、成果を挙げるには、皆さんの学問領域にとって課題は何か、何を明らかにすべきかを明確にすることが重要な第一歩になります。すなわちリサーチクエスチョンが明確であることが研究を成功させる必須条件だと思います。本日から大学院での研究生活では、まず皆さんの指導教員と相談しながら、このリサーチクエスチョンを見つける作業から始めてください。そして、自分がどうしても解き明かしたいリサーチクエスチョンに解答をあたえてくれる最適の対象を見つけ、適切な物差しで対象を測定し、結果を分析して結論を導き出す、という研究すべてに通じるプロセスを実践し、学んでください。

ところで最近のニュースで、香川県在住の17歳の若者が障害者支援製品の開発や教育事業を中心に起業し、大変注目を集めていることを知りました。楠田亘君という若者です。彼は小さな頃からロボットや機械いじりに大変興味があったようですが、一方で他者との交わりに不安を抱え不登校になった時期もあったようです。これらを乗り越え、高等専門学校生になった16歳の時に、この起業を思い立ったとのこと。彼の会社では、県内の小中学生らにドローンの仕組みや3Dプリンターの応用の仕方などを教えたりしながら、エンジニアリングとマネジメントを融合させた人材育成を目指しているようです。たった一人の若者のチャレンジですが、私には本学にとっても大変なライバルが出現したと感じて

います。「研究」はもはや大学だけのものではないことを肝に銘じるべき時代が到来していると言えます。課題を解決するチャレンジ精神を持つ者にだけ研究者の道が開けると 생각합니다。

皆さんが選択した大学院での生活は、間違いなく皆さんの人生にとってかけがえのない貴重な時間になります。実りの多い時間となるように、どうか大切に過ごしてください。期待しています。

平成 30 年 4 月 3 日

香川大学長 笥 善行